

# 2022年度「就職先企業等に対する目白大学短期大学部卒業生の学習成果調査」 結果報告

目白大学短期大学部

## 【1】調査の概要

### 1. 目的

本学卒業生の学生時代の学習効果が、就職先等で生かされているかを検証し、在学生への教育活動・就職支援に反映させる。

### 2. 調査対象

目白大学短期大学部 2022年度3月卒業生（ビジネス社会学科、製菓学科、歯科衛生学科）の就職先企業および団体 99社

### 3. 実施時期

調査期間： 2022年10月3日（月）発送～2022年10月21日（金）

集計期間： 2022年10月24日（月）～2022年10月31日（月）

### 4. 調査方法

調査用紙を企業・団体に郵送し、Google フォームでのアンケート回答にて回収

### 5. 回答状況について

【回答数】 99件中36社

【回答率】 36.4%

### 6. 調査項目

問1. 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか。

問2. 本学の卒業生は積極的に仕事に取り組んでいますか。

問3. 採用いただいた卒業生は、本学で学んだ以下の点を業務上活かしていますか。

- ①社会人としての基礎的な知識
- ②仕事に対する姿勢
- ③社会の変化に対応し行動する力
- ④課題解決に向けて学び続ける力
- ⑤情報リテラシーを活用する力
- ⑥マナー
- ⑦教養
- ⑧コミュニケーション能力

問4. 今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われることを、ご入力ください

問5. 採用選考時に、成績証明書・健康診断書・卒業見込証明書以外で大学が提供すれば、採用判断に有用となり得る情報や証明書があれば、ご入力ください。

## 【2】調査結果

### 1. 結果概要

本調査においては、学科別に回答を求める項目を設置していないため、学科別の結果分析を行うことができなかった。今後は学科別の学習成果の回答項目を設けるか、卒業生の学科を確認する項目を設けることが望まれる。

また、本調査の回答率は 36.4%であったが、高い回収率とは言えない。現状では本学卒業生の学習成果に不満がある企業・団体の回答が少ない可能性があるため、調査結果を教育活動・就職支援にフィードバックするためには、さらに回収率を高める必要がある。今後の調査においては、最初に「本学卒業生（〇年 3月卒業）は、勤務を継続していますか」等の項目を設け、早期退職者等が生じた企業・団体も回答可能にするとともに、企業・団体と連携して「社会の変化」に対応した就職支援体制を再構築することが望まれる。

表 1-1 問 1. 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか。

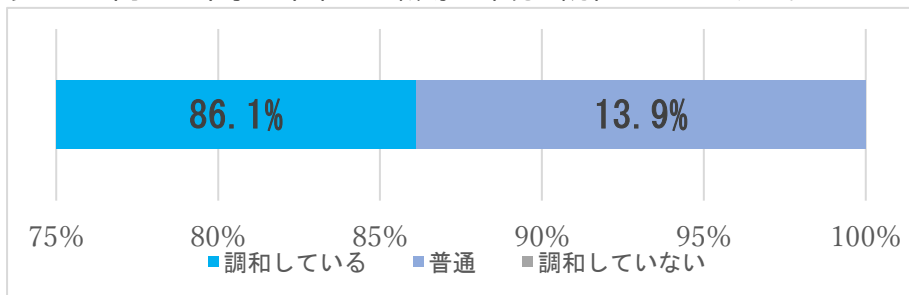


表 1-2 問 2. 本学の卒業生は職場の環境に調和していますか。

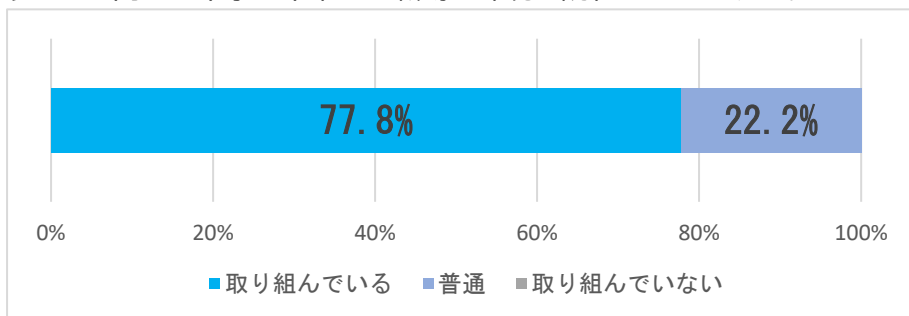
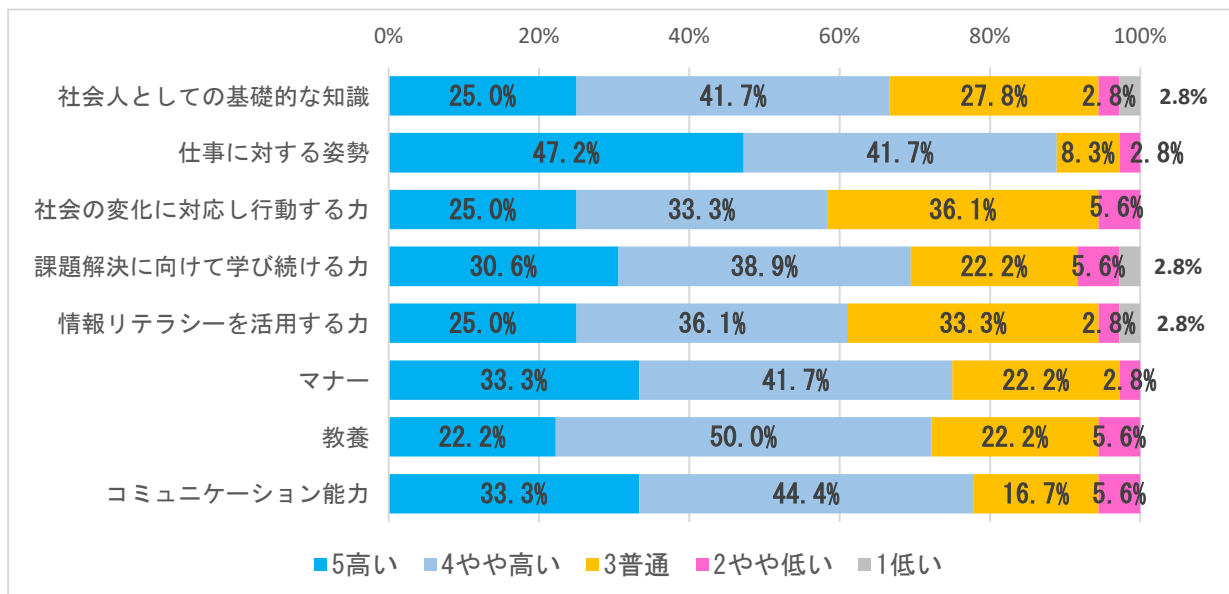


表 1-3 問 3. 採用いただいた卒業生は、本学で学んだ以下の点を業務上活かしていますか。



※問 4, 5は自由記述のため省略

## 2. 調査結果の分析と改善点

調査結果から読み取れる評価の高い力・能力としては、「仕事に対する姿勢」「コミュニケーション能力」「マナー」が挙げられる。しかし、それらの全般的に高評価の項目についても低評価の卒業生がいた。

「今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われること」で提言があった「グループワークやディスカッションといった、自分で考え発言しチームで成果を出していくようなカリキュラム」「より多くの人（学内・学外ともに）とコミュニケーションが図れる講義」「患者さん、職場でのコミュニケーション能力を高める教育」について、「ベーシックセミナー」「キャリアデザイン」等の基礎教育科目の内容の充実を図るとともに、専門教育科目においてもさらに能力を高める機会を設ける必要がある。

「高い(5と4の合計)」の割合が最も低かったのは、「社会の変化に対応して行動する力」であった。次いで「情報リテラシーを活用する力」「社会人としての基礎的な知識」が低かった。また、「低い(2と1の合計)」の回答が最も多かったのは、「課題解決に向けて学び続ける力」であった。

2022年3月卒業生は、ビジネス社会学科及び製菓学科は2020年度入学生、歯科衛生学科は2019年度入学生が主体である。2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により遠隔授業が中心となり、様々な制約の中で学び、卒業を迎えた学生であった。「社会の変化」は十分に経験したと思われるが、対面授業で人との関わりの中で自身が身につけられることや、日常の関わりの中で教員が気づき、指導できることが十分に享受できなかった可能性がある。

「今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われること」においても、実習の不足に関する指摘が複数あった。現在は各学科で感染拡大防止に配慮しながら対面授業や学外実習を行っているが、今後もできる限りそれらを充実させる工夫が必要である。

「情報リテラシーを活用する力」「社会人としての基礎的な知識」に関しては、基礎教育科目の教育内容を再検討するとともに、「社会の変化に対応して行動する力」「課題解決に向けて学び続ける力」を学生が自ら身につけられるよう、アクティブラーニングをより積極的に活用することが望まれる。

また、「今後本学の教育についてさらに充実が必要と思われること」で提言があった「異なる価値観を持った人と協働する機会」「社会の変化に対応して、行動できることを考える機会や経験」「製造業やメーカー営業の仕事に関する授業の充実」等は、専門教育科目において具体的な教育内容、教育方法を検討する必要がある。

以上